

高知県沿岸から得られた四国初記録のウケグチイトウダイ *Neoniphon sammara*

太田啓佑

Author & Article Info

(高知市)
dpman875@yahoo.co.jpReceived 03 November 2020
Revised 06 November 2020
Accepted 07 November 2020
Published 07 November 2020
DOI 10.34583/ichthy.2.0_10Keisuke Ota. 2020. First Shikoku record of *Neoniphon sammara* (Holocentridae) from Kochi Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 1: 10–12.

Abstract

A single specimen (136.2 mm standard length) of *Neoniphon sammara* (Forsskål, 1775) (Beryciformes: Holocentridae) was collected from off Kashiwa Island, the southernmost tip of Kochi Prefecture, southern Shikoku, Japan. This species has previously been recorded only from Wakayama Prefecture, and the Ryukyu and Ogasawara islands. Thus, the Kochi specimen represents the first record of the species from Shikoku.

イトウダイ科 Holocentridae は熱帯から温帯域に広く分布し、日本からは6属41種が知られており、そのうちウケグチイトウダイ属 *Neoniphon* は4種が記録されている (Shimizu and Yamakawa, 1979; 本村, 2020)。

2020年9月29日、高知県大月町柏島にてウケグチイトウダイ *Neoniphon sammara* (Forsskål, 1775) が1個体採集された。本種は紅海を含むインド・太平洋広域に分布し、日本では小笠原諸島、和歌山県田辺湾・串本、種子島、奄美群島 (奄美大島・徳之島・沖永良部島・与論島)、沖縄諸島 (沖縄島・伊江島)、慶良間諸島、宮古諸島、八重山諸島 (石垣島・西表島・与那国島) から報告されている (林, 2013; 江口・本村, 2016; 本村, 2020)。本標本は四国ならびに高知県におけるウケグチイトウダイの初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法は Shimizu and Yamakawa (1979) にしたがった。標本の作製、登録、撮影および固定方法は本村 (2019) に準拠した。計測はデジタルノギスを用いて 0.1

mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。色彩の記載は固定前に撮影された高知県産の1標本のカラー写真に基づく。本報告に用いた標本は高知大学理工学部海洋生物学研究室 (BSKU) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Neoniphon sammara (Forsskål, 1775)

ウケグチイトウダイ

(Fig. 1)

標本 BSKU 128868, 標準体長 136.2 mm, 高知県大月町柏島, 水深 2 m, タモ網, 2020年9月29日, 太田啓佑。

記載 背鰭鰭条数 X-I, 12; 臀鰭鰭条数 IV, 8; 胸鰭軟条数 13; 側線有孔鱗数 40; 背鰭棘条部中央下側線上方横列鱗数 2.5。体各部測定値の標準体長に対する割合 (%) : 体高 31.0; 体幅 17.3; 頭長 31.9; 吻長 10.6; 眼径 10.4; 両眼間隔 8.1; 上顎長 12.1; 前鰓蓋骨隅角部棘長 3.5; 尾柄高 8.6; 尾柄長 12.4; 背鰭前長 36.0; 臀鰭前長 72.4; 腹鰭前長 35.7; 背鰭第1棘条長 14.2; 背鰭第2棘条長 16.5; 背鰭最長棘条長 (第3棘) 16.6; 背鰭第10棘条長 4.3; 背鰭第11棘条長 5.2; 背鰭最長軟条長 (第2軟条) 16.4; 臀鰭第1棘条長 0.8; 臀鰭第2棘条長 3.9; 臀鰭第3棘条長 25.3; 臀鰭第4棘条長 14.2; 臀鰭最長軟条長 (第1軟条) 15.9; 尾鰭長 22.4; 胸鰭長 15.6; 腹鰭棘条長 16.2; 腹鰭軟条長 18.7。

体は細長く側扁し、腹部は丸みを帯び、尾柄はやや細い。体高はやや低く、背鰭第4棘条基部で最も高い。吻は尖り下顎先端は上顎先端より突出する。口裂は大きく上顎後端は眼の中央直下付近に位置する。両唇は厚い。両鼻孔は1対で接近し、眼窩前縁の直前に位置する。後鼻孔は前鼻孔より大きい鼻孔の後部に小棘はない。眼は大きく円形で頭長の 32.6%。肛門は臀鰭起部の前方、背鰭第11棘条基部の直下に開孔する。主鰓蓋骨棘は2本。涙骨上縁は平滑。前鰓蓋骨隅角部棘長に強くて長い1棘があり、その長さは眼径の 33.8%。背鰭起部は鰓蓋上端より後方に位置し、棘条部の鰭膜には切れ込みがある。背鰭棘条は第3棘が最長。



Fig. 1. Fresh specimen of *Neoniphon sammara* (BSKU 128868, 136.2 mm standard length, Kashiwa-jima island, Kochi Prefecture, southern Japan).

背鰭棘条部の最終棘が第1軟条にかなり接近する。背鰭軟条部は臀鰭の真上に位置し、第1軟条のみ不分枝で残りは分枝する。臀鰭起部は胸鰭後縁より後方に位置し、臀鰭軟条は第3棘が最長で、他の棘と比べて太く、先端は鋭く尖る。腹鰭起部は胸鰭起部の後方、背鰭第3棘基部下に位置する。胸鰭起部は背鰭第1棘基部下、腹鰭起部真上の前方に位置する。尾鰭は二叉し、両葉先端はやや尖る。

生鮮時の色彩 (Fig. 1) 体の地色は白色で、後方に行くにつれて金色味を帯び、体側面に10本の赤色縦線が通る。吻端から上頭部は赤色。頬部は白色で、小赤色点が散在する。鰓蓋は赤色で外縁は白色。虹彩は赤色で、瞳孔は黒色。第1背鰭は赤色で、第1-3棘条の間に眼径よりやや大きい黒色斑がある。背鰭第1-9棘条の鰭膜上部は黄色で、鰭膜下部に白斑がある。第2背鰭は第1棘条から第1軟条までは赤く、第2-11軟条は黄色。臀鰭第1-2棘条は白色で、第3棘条から第3軟条は赤色、第2-8軟条は黄色。胸鰭は白色半透明で、基部は赤色。腹鰭は白色半透明。尾鰭後縁は黄色で、第1-3軟条と17-19軟条は赤色。

備考 本標本は前鰓蓋骨隅角部に強くて長い1棘がある、背鰭最終棘が第1軟条に接近する、口を閉じたとき下顎が強く突出する、臀鰭軟条数が8、胸鰭軟条数が13、背鰭第1-3棘条の鰭膜に黒斑をもつなどの特徴が Shimizu and Yamakawa (1979), 林 (2013), Copus et al. (2015) の定義する *Neoniphon sammara* の特徴によく一致したため本種に同定された。

本種は本州沿岸からは和歌山県田辺湾・串本のみから記録があり (林, 2013; 江口・本村, 2016; 本村, 2020),

四国からは今回が初めての記録である。イトウダイ科魚類は夜間物陰から出て摂餌を行う事が知られており (Ray et al., 2015), 本個体も夜間岩礁域の水深2 m 地点を単独で遊泳していた。今回採集された個体は、標準体長136.2 mmの成魚であったが、確認されたのは1個体のみであり、黒潮によって南方から成魚が流されてきたのか卵・仔稚魚の段階で流されて来たものが成長し越冬したものなのか、もしくは本種が高知県沿岸で再生産しているのかは定かではなく継続的な調査が必要である。

謝 辞

本稿を執筆するにあたり、高知大学理工学部生物科学科の遠藤広光教授には本稿での報告に用いた標本1個体の受け入れをしていただいた。また同研究室の岡内優人氏には標本の登録作業をしていただいた。ここに記して深く感謝申し上げる。

引用文献

- Copus J. M., R. L. Pyle and J. L. Earle. 2015. *Neoniphon pencei*, a new species of holocentrid (Teleostei: Beryciformes) from Rarotonga, Cook Islands. Biodiversity Data Journal, 3:e4180: 1–29. (<https://bdj.pensoft.net/article/4180/download/pdf>)
- 江口慶輔・本村浩之. 2016. 琉球列島におけるイトウダイ科魚類相. Nature of Kagoshima, 42: 57–112. (http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_042/042-010.pdf)
- 林 公義. 2013. イットウダイ科, Pp. 579–591, 1897–1899. 中坊徹次(編). 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/FishCollectionManual.pdf>)

- 本村浩之. 2020. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 560 pp. (https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/2020_05_JAFList.pdf)
- Ray, D., A. Mohapatra, P. Yennawar and N. Ghorai. 2015. New records of four squirrelfishes (Beryciformes: Holocentridae) from the coastal waters of west Bengal, India. *Records of Zoological Survey of India*, 115: 207–211.
- Shimizu, T. and T. Yamakawa. 1979. Review of the squirrelfishes (subfamily Holocentrinae: order Beryciformes) of Japan, with a description of a new species. *Japanese Journal of Ichthyology*, 26: 109–147.